



2015

フジ・メディア・ホールディングス

CSRレポート

FUJI MEDIA HOLDINGS
CSR REPORT

[2014年4月～2015年3月]

TOP COMMITMENT

トップコミットメント

フジ・メディア・ホールディングス（以下、FMH）は放送から通販、都市開発から出版、人材派遣ビジネスまで多彩な事業会社から成り立っています。そこに働く人々は皆それぞれに仕事で培った個性豊かな経験の持ち主です。私たちのCSR活動を支えているのはこの幅広い人間集団なのです。

人のために役立ちたい。そうした優しく素直な心を持つ人々はこの社会に数多くいらっしゃいます。会社もまた事業が継続できるのもこの社会があってこそと考え、社会に役立つことに積極的に取り組んでいくことが必要だと考えます。

東日本大震災直後から被災地の子どもたちに笑顔をと、本や玩具を贈る活動を始め、今も「ずっとおうえんプロジェクト」、「こども笑顔プロジェクト」に引き継がれています。

私たちはメディア企業集団としての強味を活かしたCSR活動を心がけてきました。時にはエンターテインメントのプロの技を駆使、オリジナリティ豊かなアイデアも盛り込み、様々な人々と笑顔を共有してまいりました。今年度行なった主な活動をぜひご参照ください。

この多様な活動を続けてきた流れで、FMH傘下数社がまとまって取り組む機会も増えてまいりました。当然のことながらCSRに対する議論も深まり、共通認識、結束も強まってきたようです。

FMHとしてのCSR スローガンを作ろう。

こうした気運が盛り上がり、2015年春、決定を見た言葉が

「つなげる笑顔 つながる心～メディアの力でできること∞（無限大）～」です。

スローガンは壁に貼ってすぐに、壁にとけ込みます。

どうしたら笑顔をつなげられるか、心をつなぐとはどういうことか？

折に触れ考え、行動するCSR を目指します。

株式会社フジ・メディア・ホールディングス
代表取締役社長

太田英昭

2015年6月

フジ・メディア・ホールディングス

認定放送持株会社（株）フジ・メディア・ホールディングスは、放送・制作・映像音楽・生活情報・広告・都市開発・出版／情報（その他）の7つのグループ、全21社の中核子会社からなるメディアグループです。

7つのグループ

放送グループ <ul style="list-style-type: none"> ・フジテレビジョン ・ビーエスフジ ・ニッポン放送 ・サテライト・サービス 	映像音楽グループ <ul style="list-style-type: none"> ・ポニーキャニオン ・フジパジフィックミュージック ・フジ・ミュージック・グループ 	生活情報グループ <ul style="list-style-type: none"> ・ディノス・セシール ・サンケイリビング新聞社
制作グループ <ul style="list-style-type: none"> ・共同テレビジョン ・フジクリエイティブコーポレーション（FCC） ・NEXTEP ・フジアール ・フジ・メディア・テクノロジー 	出版・情報その他グループ <ul style="list-style-type: none"> ・扶桑社 ・フジミック ・エフシージー総合研究所 ・フジキャリアデザイン ・フジサンケイ・コミュニケーションズ・インターナショナル 	広告グループ <ul style="list-style-type: none"> ・クオラス
		都市開発グループ <ul style="list-style-type: none"> ・サンケイビル

●青で記載された18社とフジ・メディア・ホールディングス本体の計19社でCSR推進委員会を年に1回開催しています。またその下部組織・CSR推進連絡会議を年3回開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。

CSR活動方針 [CSR = Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任]

フジ・メディア・ホールディングスのCSR活動は、その長期的ビジョンの達成を図り、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者、株主、投資家、取引先等を始めとする国民各層の支持を頂き、フジ・メディア・ホールディングスの持続的な成長を確保するための活動です。

そのため、フジ・メディア・ホールディングスはグループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行いながら、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆様等の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造をめざして、事業活動を通じた社会への貢献、地球規模の環境保全や身近な環境活動を積極的に進めていきます。

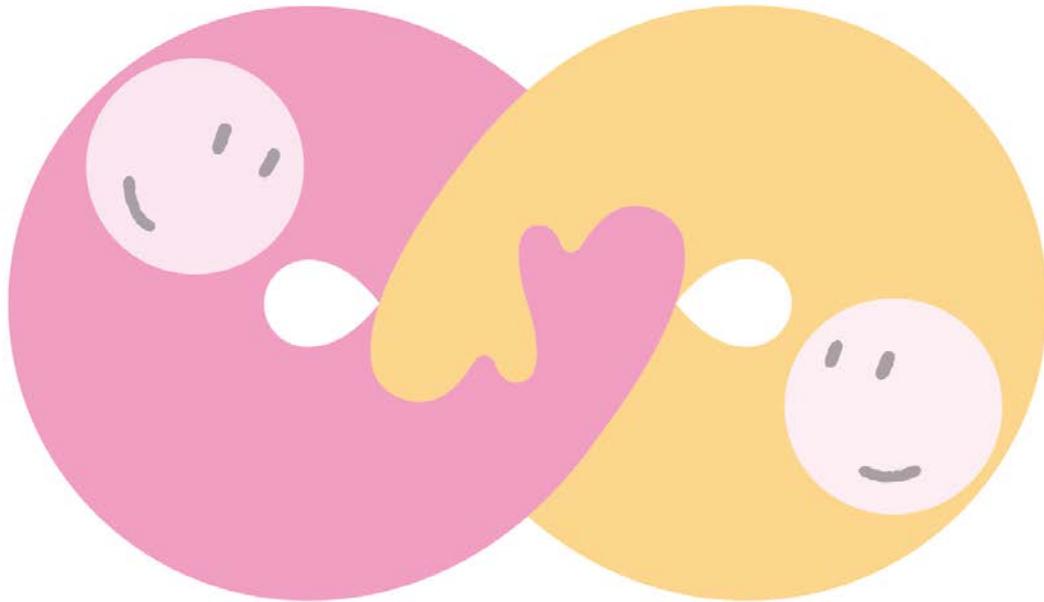
編集方針

本報告書はフジ・メディア・ホールディングス各社が2014年4月1日から2015年3月31日までに行ったCSR活動をまとめたものです。2014年度も、主たる事業である放送とエンターテインメントを活かして、多岐にわたる活動を行ってきました。本報告書はそれらを読みやすく、皆さまにご理解いただきやすいよう編集し、まとめたものです。ご意見、ご感想などがございましたら是非お寄せ下さい。

フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室 csr.ss@fujitv.co.jp

CSR共通スローガンが決まりました！

このスローガンは、2014年7月よりCSRスローガン検討会議において議論を重ね、2015年5月に決定したものです。ロゴのデザインはフジアールが担当しました。



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

多様なメディアが力を合わせてできること。
その可能性は無限大です。

私たちは社会の一員として
何ができるかを考え
行動することで
たくさんの人たちを笑顔にしたい。

その笑顔をつなげることで
心までつなげることが出来たら…

それが私たちの願いです。

[2015年春]

わたしたちのCSR活動

～各社の強みを活かした社会貢献活動を展開～

PICK-UP 特集

- [1] コーズマーケティングによる社会貢献
- [2] 女性の活躍推進への取り組み
- [3] 教育CSR：「あなせんプロジェクト」

次世代育成支援

Support for the Next Generation 10

- 10- 食育出前授業「ハロー！どっこくん」
- 11- 次世代のクリエイター発掘と育成
- 12- 職場体験
- 13- その他の取り組み

災害復興支援

Support for Reconstruction of the Disaster-affected Areas 15

- 15- 「東北に春をお届けします。」
- 16- 「ずっとおうえんプロジェクト」
- 17- 「こども笑顔プロジェクト」
- 18- 番組と連動した取り組み
- 20- イベントによる取り組み
- 21- 各社の強みを活かした取り組み

社会のために

Contribution to Society 22

- 22- 「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」
- 23- 「FNSチャリティキャンペーン」
- 24- 番組・イベントを通じた社会貢献
- 26- 地域社会への貢献
- 27- 障がい者支援
- 29- 各社の強みを活かした社会貢献

地球環境のために

For Environment 31

- 31- 合同清掃活動
- 33- 番組を通じた取り組み 他
- 34- その他の取り組み
- 36- 国産材利用による森林の循環を促進

コーポレート・ガバナンス・内部統制・コンプライアンス等 37-40

フジサンケイグループとしての取り組み 41-42

株式会社 デイノス・セシール

〔コース・マーケティング〕による社会貢献

対象商品をご購入いただくと一定額が寄付へ

デイノス・セシールでは、お客さまとともに行う活動として、2009年冬に初めての寄付つきカタログを発行し、コース・マーケティング※を本格的に開始。以降、カタログやオンラインショップでのチャリティキャンペーンを拡大、継続してコース・マーケティングに取り組んでいます。

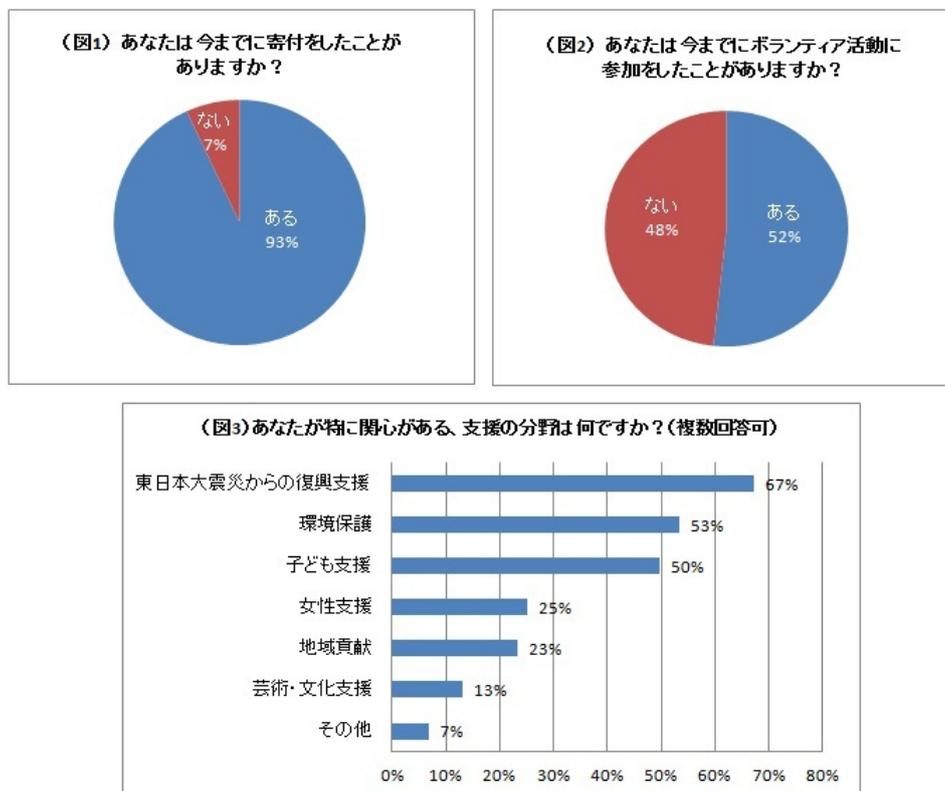
※コース・マーケティングとは

コース・マーケティングは、「コース・リレーテッド・マーケティング」といい、慈善事業協賛型マーケティングと訳されます。購入に応じ一定額を寄付することをお知らせして、販売につなげるマーケティング手法であり、現在では単にコース、寄付つき商品・サービスと称されることも多く、販売運動型チャリティ、という表現も使われます。

デイノス・セシール顧客の社会貢献意識

93%の方が寄付経験があり、各種支援への関心も高い

各種コース・マーケティングの実施は、顧客との価値観の共有、企業イメージのUPに貢献していると考えられます。



- ◆調査時期： 2013年11月21日(木)～11月30日(土)の10日間
- ◆調査方法： デイノス・セシール、それぞれの顧客に対し、WEB上でアンケートを実施
- ◆回答数： 1374件

■ 主な寄付つきカタログ・チャリティキャンペーン

ディノス・セシールでは、以下のカタログやキャンペーンで、購入に応じた寄付を実施しています。

自社の復興支援プロジェクト
「東北に春をお届けします。」に参加
 ※15ページをご参照ください。

東北の子どもたちを支援



dinos with 2014-2015冬号 Cara 2014冬号 RiLe 2014冬号 RicheYou 2014冬号



DAMA CASA 2014夏号 DAMA CASA 2014冬号 セシール こどもの日 チャリティキャンペーン 2014

途上国の子どもの
ワクチン支援

難民女性支援

ピンクリボン支援

途上国の少女支援



DAMA collection PLUS 2014 Christmas号



d - BEAUTY PREMIUM METHOD 2014夏号 d - BEAUTY PREMIUM METHOD 2014冬号



GEMS STUDIO 2014秋冬号



セシール ピンクリボン キャンペーン 2014



(上)イメージ 国際ガールズデー キャンペーン 2014
 (下)セシール HAPPY Xmas チャリティ 2014

▶ 詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.dinos-cecile.co.jp/csr/governance/07.html>

PICK UP

**「DAMA collection」(ダーマ・コレクション)を中心とした
 2014年度の支援に対し、国連WFP協会より感謝状を頂きました。**



(左から)国連WFP協会 藤曲様、同 関口事務局長、ディノス・セシール常務 宇津、国連WFP協会 小寺マネージャー



DAMA collection 2014 秋冬号 DAMA collection 2015春夏号

2010年より、顧客の購入一件につき途上国での学校給食1人一日分を支援。現在も支援を継続中。

すべての女性の笑顔のために

〔女性の活躍推進〕に向けた取り組み

サンケイリビング新聞社は、総合女性マーケティング企業として、すべての女性の未来と地域の活力を応援。事業活動による女性の活躍の推進と社内での取り組みの両面に力を入れています。

女性の活躍推進をサポートする事業活動

● もう一度働きたい女性を応援！

主婦を対象とした宅配のフリーペーパー・リビング新聞は、2014年度も「ホップステップワーキング」キャンペーンを展開。もう一度働きたいと考える主婦の不安を払拭し、仕事の再開に役立つ情報を多角的に提供。各エリア版では再就職のイベントも実施しています。

さらに主婦の再就職ニーズに応えるべく地域の情報を核とした求人サイト「リビングおしごとネット」(<http://job.living.jp/>)を8月にスタート。

● 企業で働き続ける女性たちを応援！

企業で働く女性を対象としたシティリビングでは、キャリア、結婚、子育て、職場の多様性といった働く女性がぶつかる問題を真摯に考える「働く女の会議室」を毎月特集。リアルなテーマと鋭い切り込みに読者から大きな共感が寄せられています。

● 子育て中のワーキングママを応援！

「あんふあんぷらす」は、保育園の先生から手渡しされる働くママと園児の情報誌。仕事、育児、家事に奮闘しながら、人生を楽しむワーキングママに役立つ情報を厳選。育児関連情報と、親子で楽しむコンテンツとをひとつにしお届けしています。



3/28付特集「追いついていく今、堂々と外へ」



12/5付特集「給与と仕事の幸福論」



主婦の元気はニッポンの元気！「主婦休みの日」(※29ページにも記載)

リビング新聞では1月25日・5月25日・9月25日を「主婦休みの日」として日本記念日協会に登録。家事や育児に毎日頑張る主婦がリフレッシュできるこの日の普及をめざし、多彩な企画を展開中。

【社内の取り組み】ダイバーシティインクルージョン



第1営業局
編集担当

子ども
6歳/2歳

企画開発部

子ども
4歳/2歳

あんふあん
事業部

子ども
2歳

サンケイリビング新聞社は、女性と男性が同じように活躍し、イキイキと働ける会社をめざしています。

- 女性取締役の数/全常勤取締役の**20%** (2/10人)
- 女性管理職の数/全管理職の数の**31.8%** (27/85人)
- 女性従業員の数/全従業員の数の**66.3%** (295/445人)
- 育児休業取得率 = 100%

※ 各データ、写真の社員の部署・子どもの年齢2015年3月31日現在。
管理職はリーダー職・編集長を含む

次世代育成支援の取り組み

アナウンサーによる出前授業「あなせん」プロジェクト

「伝えるプロ」によるコミュニケーションの授業を10年間継続



藤村さおりアナウンサー（左）
春日由美アナウンサー（右）
2015年3月16日 世田谷区立桜町小学校にて

あなせんとは、2005年にアナウンサーが主体となって始めた出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、当初は東京・港区/品川区の公立小学校において発声、滑舌、インタビュー技術など実践的な授業を行ってきました。2014年4月からは、この「あなせん」プロジェクトをより現在のニーズに即したものに発展させるとともに、実施エリアをフジテレビの放送圏内（関東1都6県）に拡大。内容も充実させました。

テレビ、アナウンサーの仕事について映像やクイズ形式で紹介する時間を設けるなど、「キャリア教育」の要素もプラス！

- 対象：小学校3年生～5年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]

[あなせん公式サイト] <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



これまでの実績（2005年～2014年度末）

156校 [344クラス]
約10,100人 を対象に実施



軽部真一アナウンサー
2015年1月16日品川区立浜川小学校にて

大事なのは、Face to Faceのコミュニケーション。
「伝え合う力」は、「生きる力」につながると信じて活動を継続

「あなせん」は、先生であるアナウンサーの私たちにとって、ワクワクでいっぱい時間です。目をきらきらさせて聞いてくれる子どもたち。勇気を出して発表してくれる子どもたち。伝え合うことで、これまで知らなかった面を発見し合っている子どもたち。子どもたちの「伝わるって楽しい！」「聞かって楽しい！」「やった！」という自信があふれる笑顔に出会うたびに私たちアナウンサーも自分の仕事に誇りを感じます。



「あなせん」プロジェクトリーダー
佐々木恭子アナウンサー

[次世代育成支援]

Support for the Next Generation

未来を担う子どもたちのために

バランスよい食事と運動の大切さを教える

■ 食育出前授業「ハロー！どっこくん」

● 子どもたちに食の大切さを伝える楽しいイベントを全国展開

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせやうちのキャラクター「どっこくん」体操などで構成された約40分の楽しいプログラムです。

2010年にCSR活動の一環としてスタートし、FCG総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働で展開しています。

2014年度は沖縄県、福岡県、高知県、石川県に初めて何うなど活動は全国に広がっています。

フジテレビ・FCG総研



これまでに、たくさん子どもたちと出会いました！



大型紙芝居で旬の食材を楽しく紹介



「どっこくん体操」福岡での食育イベントにて

フジテレビのキャラクター
ラフくんも登場！
杉並区の幼稚園にて



子どもたちからのお礼のお手紙

次世代のクリエイター発掘と育成

あこがれの監督と語り合う！

フジテレビ・FCC

Student Films 7 in ODAIBA「学生映画祭」2014

フジテレビは、日本映画界の若い才能を育成するため、映画を専攻している学生達に作品発表の場を提供し、第一線で活躍する映画製作者たちとの交流の場を設けるSF7「学生映画祭」を2009年から開催しています。FCCはイベント運営を担当。5回目となる今年は6つの大学（日本映画大学、多摩美術大学、東京工芸大学、日本大学、武蔵野美術大学、早稲田大学）が参加し、11月9日にフジテレビ1階のマルチシアターで学生の卒業制作など7作品が上映されました。



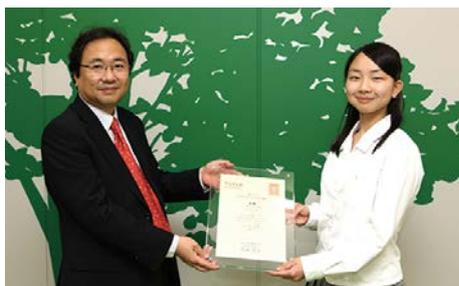
現役監督と学生が作品について意見交換



映画評論家の佐藤忠男さんから学生に対して総評

ドラマ甲子園

フジテレビ



現役高校生を対象にドラマの脚本を募集する演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、脚本を執筆者した高校生本人の演出で、テレビドラマ化されます。第1回大賞受賞作品「十七歳」も、プロのスタッフ、本物の俳優で撮影が行われ「フジテレビTWO ドラマ・アニメ」で放送されました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざして、これからも高校生たちを支援していきます。

第26回ヤングシナリオ大賞



この賞は次世代のシナリオライターを発掘・育成することを目的とした賞。第26回は1,807編の応募があり、4回にわたる選考を経て11月に大賞1人・佳作3人が選ばれました。大賞作品は映像化され12月に地上波、BS・CSでも放送されました。WEBサイトからの応募もスタートし、さらなる応募増加が期待できそうです。

キャリア教育：職場体験の機会を提供

学生に職業体験の場を提供／インターンシップの受け入れ

フジテレビ

職業体験型教育プログラム

「フジテレビのお仕事！めざましテレビをつくろう！！」



「フジテレビのお仕事！」は中学・高校の修学旅行や校外活動を対象とした職業体験型プログラムです。2009年秋に開始し5年半で延べ550校、51,400人が参加。『めざましテレビ』のミニ番組を実際に制作することを通じて、番組を作るのにどれだけのスタッフが関わっているかをクラス全員で体験します。本物の機材を使ったフジテレビならではのプログラムで、楽しく学べる社会貢献教育事業です。

[2014度は年間過去最高の約100校,11,000名の生徒が参加]

フジアール

テレビ美術業界をめざす専門学校生4名に対し、夏休みを利用した8月の1ヶ月間、就業体験ができる場を提供しました。学生の間で当社の情報が共有され、学生の就職や当社の採用に繋がることを期待しています。

共同テレビ

制作部門（ドラマ制作・バラエティ制作）においてインターンシップ制度による学生の受け入れを行い、実践的就業機会を与えました。

FCG総研

実践女子大学家政学部の学生6名を衣料管理士実習として1週間受け入れました。

扶桑社

ミエ・エファップ・ジャポンのインターンシップ制度による学生の実践的就業体験の協力を2007年から続けています。

FCC

毎年7～8月にかけて、跡見学園女子大学マネジメント学部の学生を対象に、実践的就業体験の一環として協力をしています。制作室・映像営業部の班に分かれ、約1ヶ月の期間を設けて研修を行っています。

大学などでの講義

共同テレビ

ドラマ制作に携わるスタッフ、報道カメラマンなどが大学、専門学校へ赴き「映像関係への就職」をテーマにした講演を定期的に行っています。

FCG総研

業務や自主研究で得られた専門的な知識や知見に基づいて、以下のような多くの大学からの委託で講義などを行いました。

東京家政大学家政学部「生活商品評価演習」、西武文理大学サービス経営学部「食生活論」、大妻女子大学家政学部「界面科学実験実習」、神戸大学大学院人間発達科学部特別講義「魅力あるものづくり」、武庫川女子大学薬学部「実践化粧品学」、実践女子大学家政学部「衣料管理士実習」など。

その他：次世代育成支援の取り組み

ゴルフを通じて子どもの健全な育成をサポート

BSフジ

「世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会」



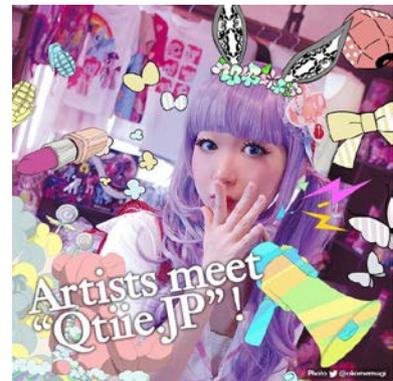
この大会は、アメリカ・サンディエゴで開催される「世界ジュニアゴルフ選手権」へ日本で予選大会を通じ優れた選手を海外へ派遣することによって、ジュニアゴルファー全体の強化をめざすものです。

BSフジは一般社団法人世界ジュニア育成協会（IJGA）と連携しながら、ゴルフの活動を通じて、子どもの健全な育成のサポート及び生涯スポーツ社会の実現並びに国際交流を目的とした活動を推進しています。

「Artists meet “Qtie.JP”！」

フジミック

フジミックが企画・運営する「Japanese Kawaii」をテーマにしたデコレーションカメラアプリ「Qtie.JP（キューティージェイピー）」において、才能ある新進クリエイターたちとのコラボレーションを企画しました。総勢11名のアーティストに個性的なスタンプやフレームの製作を依頼し、作品発表の場として提供しました。今後も新たな可能性を広げるためのコラボレーション企画を考案中です。



児童養護施設の子どもたちを支援

フジ・メディア・ホールディングス各社

■ NPO法人ブリッジフォースマイルの活動を支援

2011年より児童養護施設の子どもたちによるスピーチコンテスト「カナエール」に向け、フジテレビアナウンサーがスピーチ指導を行っています。また、ディノス・セシールは物品協賛という形で、施設を巣立つ子どもたちの自立をサポートしています。

■ ブックフォースマイルへ寄付

NPO法人「ブリッジフォースマイル」による書籍の寄贈を通じて児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援するプロジェクトに賛同しています。不要となった書籍、本等を株式会社バリューブックスへ売却。売却代金はNPO法人ブリッジフォースマイルへ寄付され、児童養護施設を巣立つ子どもたちの自立支援に充てられています。



2014年度は7社から合計3,983冊が寄付され226,893円が支援にまわりました。

その他：次世代育成支援の取り組み

子どもの健やかな成長を応援！

サンケイリビング新聞社

■ あんふあん「FSP (ファーストステッププロジェクト)」



幼稚園に配布しているフリーマガジン、幼稚園児とママの情報誌「あんふあん」では、幼稚園向けの無料イベント、FSP（ファーストステッププロジェクト）を実施しています。子どもたちにとっては、初めての社会生活である幼稚園という場で、園児の生活がより楽しく・充実したものになるよう、初めての体験を応援するイベント等を各地で開催しています。

2014年度は歌舞伎体験、影絵体験、音楽（パーカッション）体験、プラネタリウム体験など 全国20園でイベントを実施。2010年にスタートしたこのプロジェクトは、以下の3つの願いをもとに、全日本私立幼稚園連合会が展開する「こどもがまんなかPROJECT」ともコラボレーションして展開しています。

◆ 活動の様子はWEBサイトでも公開しています。 <http://enfant.living.jp/fsp/>

ファーストステッププロジェクトの3つの願い

- 少子化が進む中、社会の財産である子どもたちに心身ともに健全に成長してほしい。
- 子どもにとって、社会生活の第一歩である幼稚園での体験から、多くのことを学び成長してほしい。
- 園や家庭で、可能な限り多くの“はじめてのたいけん”をできるようサポートしたい。

交通事故を減らしたい！交通安全キャンペーン

■ 「ピッカピカの1ねんせいちょう」の配布

リビング新聞では年間を通じ交通安全啓蒙キャンペーンを、湘南エリアととちぎエリアで展開しています。この活動の一環として、各地域の交通安全協会などの団体や協賛企業とともに「ピッカピカの1ねんせいちょう」を作成。湘南エリアで1万700人、とちぎエリアで5,200人の小学校新入学1年生に配布しています。



この手帳は、交通安全の基本ルールを楽しいイラスト入りで示し、就学時の交通安全教育のお手伝いをするというものです。また、手帳を持っている児童全員を対象に、1年間の交通事故傷害保険（死亡時保障）を掛け、万一の事故に対する保障措置をするなど、先生方や父母の方々からも好評をいただいています。その他、紙面でも交通安全関連の記事を掲載し、啓蒙に努めています。

■ 東京マラソン・マクドナルドスマイルランナーへの応援寄付

扶桑社

病気で闘う子どもたちを少しでも勇気づけたいという想いを込めて、全力でフルマラソンに参加するという主旨のチャリティ活動の支援。

[災害復興支援]

Support for Reconstruction of the Disaster-affected Areas

東日本大震災で受けた傷跡はいまだに残っており、災害はまだ続いています。未曾有の大震災を風化させない、被災地の方々を忘れないということが、私たちメディア企業が社会に対して約束する「責任」です。

「東北に春をお届けします。」

フジ・メディア・ホールディングス各社

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

● 16社で福島・国道6号線沿いに桜の苗150本を植樹

福島県沿岸部の国道沿いに桜の苗木を植える「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」の趣旨に賛同し、昨年からの寄付を行っています。ディノス・セシールを事務局とし、**2014年度は16社で150本の桜の植樹を支援。**

2015年1月14日に、参加企業の有志16人で福島県双葉郡広野町を訪問し、そのうちの一部を植樹しました。

今後もこの活動を継続し、地元の方々に桜の成長を楽しんでいただき、また、2、30年後にこの場所が桜の名所となるよう活動を継続していきます。



岩手めんこいテレビのミット君も参加♪

PICK UP

フジテレビ「ずっとおうえんプロジェクト」とコラボ



ディノス・セシールでは、この「東北に春をお届けします。」の一環として、2015年3月、宮城県沿岸部及び岩手県沿岸部の児童関連施設に15,000鉢のビオラの花の苗を届けました。4年目となる今年も、フジテレビとコラボし、岩手県大槌町の幼稚園・保育園3ヶ所にて、武田祐子アナウンサーによる春のお話の朗読やダンス、岩手めんこいテレビのキャラクター「ミット君」とのふれあいを盛り込んだイベントを実施しました。

被災地をわすれない…オリジナルの復興支援活動を継続

わたしたちにしかできないことがある…

フジテレビ

フジテレビずっとおうえん。プロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生直後から被災地復興支援活動を継続して行っています。

発災直後には、「こどもおうえんプロジェクト」として、物資を直接被災地に届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどを行ってきました。2012年4月からは、子どもだけではなく大人、お年寄りに支援対象を広げた「ずっとおうえんプロジェクト」を始動。

そして2013年からは、被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。



■ 2015年1月12日福島テレビ主催のFTVジュニアオーケストラ「NEW YEAR'S CONCERT2015」にサザエさんと福島テレビのキャラクター「ふくとん」が登場し、会場の皆様にお米をプレゼントしました。

● 2014年度の活動

6月	福島県 郡山市・総合児童発達支援センターアルバ	チア・リーディング&キャラクター・グリーティング
7月	岩手県 田野畑村・若桐保育園	食育イベント「ハロー！どっこくん」
11月	宮城県 ふたばバンビ幼稚園	食育イベント「ハロー！どっこくん」
12月	福島県 広野幼稚園・広野保育園 かわうち保育園	ラフくん&ふくとんとクリスマス
1月	福島県 福島市音楽堂他1ヶ所	サザエさんグリーティング
3月	岩手県 大槌町・みどり幼稚園・おさなご幼稚園 堤乳幼児保育園	朗読会&お花の苗のお届け (ディノス・セシールとコラボ企画)
3月	福島県 富岡町・あだたらつつじ保育施設 とみたさくら保育施設 富岡幼稚園・富岡小学校	サザエさんグリーティング

14ヶ所 約1,600人を対象に実施

〔プロジェクトが発足した2011年からこれまでの活動実績〕



153ヶ所を訪れ、
約15,700
人の笑顔と出会いました！

テレビ美術の力で復興支援

“テレビ美術の力”で子どもたちを笑顔にしたい…

「こども笑顔プロジェクト」

フジテレビ・フジール（八美会）

このプロジェクトは、フジールと美術協会各社[八美会]+フジテレビ美術制作局が企画したテレビ美術の世界を体験できるイベントです。災害に遭った子どもたちと家族に楽しんでもらおうと、2013年10月に岩手県大船渡市で第1回を開催。

2014年度は、4月20日に第2回を宮城県名取市のメイプル館で、10月18日に第3回を岩手県宮古市で開催しました。

テレビ番組のセットを組立て、そこで子どもたちに「のこぎり体験」をしてもらったり、セットの廃材を利用して「輪ゴム鉄砲」を作ったりと、ものづくりの楽しさを味わえるコーナーが大人気！また、サザエさんやバカ殿に扮して写真撮影ができるエリアには長い列ができ、家族みんなで楽しんでいただけるイベントになりました。

今後もこの「こども笑顔プロジェクト」を継続し、被災地の子どもたちに笑顔を届けることで復興のお役に立てればと考えています。

こども笑顔プロジェクト
テレビ美術がやるー!



のこぎり体験
上手に切れるかな？

廃材を利用して
輪ゴム鉄砲を
作るコーナー



プロのメイクさんにより
サザエさんやバカ殿に
扮して記念撮影



ノリノリでポーズ。
みんなが笑顔に！



番組と連動した災害復興支援

『めざましテレビ』 Tattonプロジェクト

フジテレビ



東日本大震災による津波で、岩手県、宮城県、福島県あわせて19,302ヘクタールが海水に浸かり稲作が不能となりました。そこで、農地に除塩効果があるという綿花を植えて田んぼを再生させようという取り組みが、この「Tattonプロジェクト」※です。

Tatton
Tasbe X Cotton



※「Tatton」とは【田んぼ】と【綿=コットン】を掛け合わせた言葉

朝の情報番組『めざましテレビ』による番組連動型の復興支援プロジェクトで、震災直後の2011年5月から約4年に渡り継続しています。

2014年度は、東松島、気仙沼、丸森、福島あわせた圃場面積が2ヘクタールになりました。採れた綿花でゴールデンボンバーのTシャツ、松下奈緒さんデザインのTシャツ、公募デザインのTシャツなどを販売しました。今年度は新たに川嶋あいさんも参加、植え、除草、収穫作業などを行いました。



● 圃場オーナー制度もスタート

また一戸一万円で自分の農地をもつことができる圃場オーナー制度もスタート。現地に行くことができない方もプロジェクトに参加できるようになりました。

● 他企業とのコラボレーション

7月からはファミリーマートと連動して、ファミマドットコムからの募金を開始したほか、グッズも店舗で購入できるようになりました。イタリアの服飾メーカーオロビアンコとコラボしたパーカーも大好評！さらに今年度は、ボランティアツアーに企業や大学生が参加するなど、支援の輪も広がっています。

● 番組・シンポジウムを通じて発信

この活動は、2014年度『めざましテレビ』で合計8回放送。また、観光庁の地域振興ビジネスに選ばれており、11月30日には活動を報告するシンポジウムを社内で開催。2月には「タビイチグランプリ」一般投票部門第2位となり観光庁から表彰を受けました。今後もこの「Tattonプロジェクト」を継続させ、被災地復興支援につなげていきたいと考えています。

CHANGE THE WORLD



宮城県気仙沼市の地元の人たちとのふれあいを通して、復興に向け今何が必要かをともに探り、形にしていく番組連動プロジェクト。気仙沼にイノベーションを起こすことを通じて、町に再び活気を取り戻せたらと、2014年度は風評被害で売れ行きが4割減ったワカメをアレンジした料理を提案し、売り上げを伸ばしたり、水揚げ日本一のメカジキをレストラン「俺のフレンチ」「俺のイタリアン」のシェフとコラボして期間限定で都内店舗で提供。さらにプロジェクションマッピングナイトを開催し、3,000人を集客し地域活性化に貢献しました。

番組と連動した災害復興支援

東北に元気と笑顔を！【平成26年日本民間放送連盟賞・優秀賞受賞】

BSフジ

『甦れ！東北の鉄路2014』



東北の鉄道の復旧をめざす人々に密着したドキュメンタリー番組。東日本大震災で甚大な被害を受けた東北鉄路。全線復旧をめざす鉄道員や応援する鉄道写真家、1日も早い復旧を願う沿線の人々や、立ちはだかる課題にスポットを当て、鉄路での復旧を願う自治体や住民の思いを取材し、放送しました。

[2014年5月18日 19:00~20:55 BSフジにて放送]

『がんばっぺ東北魂！～東北スマイル100人分集めました～』

日本大震災から3年。震災復興活動をしている人々や被災者の笑顔を写真に収めて東北の元気を全国にお届けする番組を放送しました。

[2014年9月28日 20:00~20:30 BSフジにて放送]

『東北魂TV 復興支援スペシャルLIVE 2014 in お台場』

- 実施日：2014年7月25日(金)
- 開催場所：Zepp ダイバーシティ東京（約800人）
- 出演：サンドウィッチマン・マギー審司・狩野英孝・鳥居みゆき・トミドコロ・磁石・U字工事・どぶろっく・流れ星・東京ダイナマイト

"笑いで東北を、日本を元気に!"をテーマに、東北出身のお笑い芸人が集結するバラエティ番組『東北魂TV』。2013年宮城県名取市で開催した復興支援ライブに引き続き、2014年は夏のお台場新大陸のサテライトイベントとして、番組公開収録も兼ね開催しました。番組テーマのもと、復興支援として寄付を行っており、BSフジのCSR活動の取り組みとしても重要な意味を持つイベントとなっています。

[2014年8月17日 13:00~15:00 BSフジにて放送]



ドキュメンタリー番組 『わ・す・れ・な・い』シリーズ

フジテレビ・共同テレビ



このシリーズは、2011年の8月から過去5回にわたり甚大な被害をもたらした“巨大津波”の挙動を膨大な視聴者映像と証言に基づき、時系列に沿って検証する特別番組です。あの日、間一髪、津波から逃げ切った人たちは何を思い、どんな判断をしたのか？ 6回目となる今回は“地震発生から津波到達までの時間”に注目。津波から生き延びるため、私たちが学ぶべきことは？ あまたの津波映像から、人々の“秒との闘い”を検証しました。

[2015年3月7日 15:35~17:30 フジテレビにて放送]

イベントによる災害復興支援

音楽の力で東北のみなさんを笑顔に！

ポニーキャニオン

GLAY「GLAY EXPO TOHOKU 2014」開催&東北六魂祭に6,000人を無料招待

2014年にデビュー20周年を迎えたGLAYは「東北の皆さんを笑顔にしたい！」というメンバーの想いから8月に東北全県にてホールツアーを実施、9月20日には「ひとめぼれスタジアム宮城」にて「GLAY EXPO TOHOKU」を開催し、大規模野外ライブとして東北史上最大となる5万5千人を動員しました。（経済波及効果54億円）



[2014年5月25日・9月20日]

東北EXPOではGLAYメンバーと公募で集められた111名で構成される地元の和太鼓隊との夢のコラボも実現！

さらに東北6大まつりをフィーチャーしたコーナーもEXPOのハイライトとなり大いに盛り上りました。なお東北ツアー前に山形市で開催された東北六魂祭でのライブでは、山形県在住の仮設住宅で暮らしている方々や県内小学生等6,000人が無料招待されました。

被災地出身のアーティスト片平里菜の活動を支援

福島県福島市出身のシンガーソングライター片平里菜さんは、震災直後から復興支援活動を続けています。2014年度は8月17日に福島市を音楽で盛り上げるべく、福島出身のアーティストと無料イベント「福島まちなかAccoustic Live」に出演。また福島テレビ「いっしょに歩こう！ふくしま」の通年イメージソングに、楽曲「小石は蹴飛ばして」が選出されました。

福島の復興支援に貢献

クオラス

「夜ノ森の桜保全基金」を設立、チャリティCDを発売・収益金を寄贈



福島県富岡町の「夜ノ森」の美しい桜並木を保全することを目的として、クライアントに「夜ノ森の桜保全基金」の設立を提案、チャリティCD「桜舞う町で」（作詞/普天間かおり、作曲/村井敏明）を発売、収益金は2014年12月5日、富岡町に寄贈しました。

当基金運営のために設立された実行委員会は、富岡町、地元新聞社・ラジオ局、クライアント及びクオラス等で構成されています。

[2014年12月5日]

● 「浜通りふるさとまつり」

人々に帰還できない故郷・浜通り地域を思い出すとともに、福島の「歴史」「文化」「食」を通して笑顔と勇気、そして元気を取り戻していただくことを目的として、クライアントにイベント「浜通りふるさとまつり」を提案、地元ラジオ局・テレビ局と連携して、2014年7月26日、郡山市内で開催しました。ステージでは、伝統芸能の披露や歌謡ショー等を展開。

また、仮設住宅対抗の郷土料理・創作料理コンテストを実施、グランプリ受賞の「マミーすいとん」は、9月10日に都内（日本橋）の福島館で販売されました。

[2014年7月26日]

各社の強みを活かした災害復興支援

仙台の街に彩りを！

■ 仙台スカイキャンドルライトアップ

仙台放送大年寺送信所鉄塔「仙台スカイキャンドル」のライトアップの照明プロデュース・デザインプログラミングを行っています。日没後はLED照明でライトアップし、様々な色とバリエーションで仙台の夜の街に彩りを添えています。LEDの使用で、消費電力は従来の約20%と省エネに大きく貢献しています。

[2012年6月～継続]

また、宮城県石巻市のライブハウス等で復興支援の一環として照明機材の寄贈や年に数回メンテナンスを行っています。

[2012年11月～継続]

フジ・メディア・テクノロジー



新しいテクノロジーで利便性の高い災害情報を提供

フジミック

■ 災害情報システムの提供

緊急の大規模災害に備え、セキュリティと安定性に優れたネットワーク網により、災害情報や気象情報をリアルタイムに提供できるクラウドサービスによる災害情報システムを構築しました。フジテレビや国内の大型テーマパークへもサービスの提供を開始しています。

[2014年4月1日～継続]

■ 災害対応デジタルサイネージの提供

駅や商業施設など多くの人が集まる公共の場所で、宣伝広告・各種案内の映像を表示するパネルに、リアルタイムで緊急災害情報を表示させるシステムを構築しました。フジテレビほかで試験的に導入しているほか、病院等への導入も提案しています。

[2014年4月1日～継続]

「ラジオだからできること」で被災地に貢献

ニッポン放送

■ ラジオ番組「マイプレイリストLove for Japan～kizashi～」

被災地の臨時災害FM局等へコンテンツを提供しています。ラジオ番組「マイプレイリストLove for Japan～kizashi～」は、2011年10月よりコンテンツ提供しており、現在も継続中です。



■ 防災一口メモの放送

リスナーに防災意識や防災対策、災害時の対処法を伝える啓発を行っています。

[社会のために]

Contribution to Society

あらゆる人がバリアを感じない社会のために



AM RADIO 1242 ニッポン放送

フジ・メディア・ホールディングス各社で支援

「第40回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

ラジオ・チャリティ・ミュージックソンは、ニッポン放送が1975年から行っている視覚障がい者のためのチャリティ活動です。毎年クリスマス・イヴからクリスマスにかけて24時間、ラジオを通じて募金を呼びかけるもので、今回が40回目。

寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」「立体コピー」など多数の視覚障がい者用教育機器などに使われます。

このラジオ・チャリティ・ミュージックソンへの協力をフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で毎年継続しています。2014年は17社から49人が参加し、募金の電話受付と屋外ステージでの街頭募金活動を行いました。



- 実施日：2014年12月24日正午～25日正午 パーソナリティ：上戸彩
- 募金受付期間：2014年10月31日～2015年1月31日

最終募金額：6,392万7,192円

これまでに
2,980基の
「音の出る信号機」が
設置されました。



イマジנסスタジオにてリスナーからの募金の電話に応答



FMH各社交代で有楽町駅で街頭募金のお手伝い

世界の子どもたちの笑顔のために

フジ・メディア・ホールディングス各社で支援



FNSチャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに行っているチャリティ活動です。フジテレビの系列各社が放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上におよぶ活動の募金総額は約40億円に達しており、アジア・アフリカや世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

フジ・メディア・ホールディングス各社もこの活動に協力しています。

● 2014年度の支援国 フィリピン共和国

2013年11月8日に発生した台風30号はフィリピン・レイテ島をはじめとするフィリピン中部の島々に広範囲にわたる壊滅的なダメージを与えました。この台風で被災した人々は1,400万人以上と言われ、そのうち子どもたちは672万人、被災した学校は7,000校以上と言われています。



第41回となる2014年度は、こうした状況にあるフィリピン共和国の子どもたちを支援するため、フジテレビ『とくダネ!』の森本さやかアナウンサーと取材班が14日間にわたり現地取材。それをもとに被災地の実情を5月20日、21日の『とくダネ!』で放送したほか、BSフジでも放送し、子どもたちの保健・衛生・教育環境の充実のための支援を呼びかけました。

■ 番組による募金活動

- 『フィリピン巨大台風～被災地レイテ島“笑顔”のワケ』
フジテレビ系列局の地上波とCS・フジテレビONE,TWO,NEXTで放送
- フジテレビ『とくダネ!』内で2日間のシリーズで放送
- BSフジで1時間のドキュメンタリー番組『がれきの中の子供たち』を放送

■ フジテレビ製作の映画収益からの寄付

- 映画「テラスハウス クロージングドア」(2015年2月14日公開)
の収益から総額600万円を寄付しました。

■ 各種イベントによる募金活動

- フジテレビ森本アナウンサーによる現地取材報告講演会
- フジテレビアナウンサーとアイドルリング!!!によるチャリティ朗読劇「イキヌクキセキ」
- ディノス・セシールの在庫衣料品・雑貨をフジテレビ社内のチャリティセールで販売し全額を寄付
- 8月8日「フジテレビの日」フリーマーケットによる募金 他



2014年度の募金総額：**5,429万5,318円**
(最終寄付金額 4,952万4,408円)

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援のために活用されます。

番組・イベントを通じた社会貢献

"一つのテーマを2時間徹底議論！ 問題の解決策を見つけ出し提言する"

『BSフジLIVE プライムニュース』

BSフジ・フジテレビ・NEXTETP



「政治」「経済」「国際」「環境」「社会問題」の5つのジャンルから、いま世の中で関心の高い問題を毎回1つ絞り、その問題について相応しい人物(当事者や関係者)をゲストに、2時間に及ぶ解説と議論で、その問題について徹底的に掘り下げる番組です。

短い時間ではフォローしきれない問題の背景・解決のヒントなどを提示するなど、視聴者の知りたい情報を幅広く提供しています。

[毎週月曜日～金曜日 20:00～20:55 BSフジにて放送中]

番組を通じたインバウンドの促進

『ツーリズムEXPOジャパンのすべて』

BSフジ

2014年で25回目を迎えたアジア最大級体験型旅行産業イベント【ツーリズムEXPOジャパン】は、世界150を超える国や地域が参加し、1000万人もの来場者数を集めました。日本観光産業であるインバウンドを軸とした視点で番組を放送しました。

[2014年11月15日 12:00～12:55 BSフジにて放送]

『異文化交流バラエティ ウェルカムJAPAN』

フジテレビ・NEXTETP

日本大好き外国人が、日本文化の真髄を学び、夢を叶えるべく挑戦する姿に密着・応援するドキュメントバラエティです。サムライに憧れ武士道に惹かれるカナダ人が、プロの応援団に入門し仁義礼智を学んで演舞を披露したり、アメリカ人シェフが自然の食材と向き合い「日本人の胃袋を掴む和食」に挑戦したり、日本文化に体当たりする外国人を通して、忘れかけていた“日本の良さ”を改めて再発見する番組です。

[2014年6月1日 16:05～17:20 フジテレビ系列にて放送]

番組を通じて地域や人を元気に！

『ニッポン発掘 快傑！テリー塾』

BSフジ

番組のご意見番・テリー伊藤が「自分の町や、特産品を見て欲しい、知って欲しい」という、町おこしに意気込む全国各地の商工会のゲストにアイデアを提言する番組。全6回シリーズで番組を放送し地域活性化に貢献しました。

[2014年5月～12月(全6回放送) BSフジにて放送]

『my Value my Way』

フジテレビ・NEXTETP

“自分のスタイルを確立し、人生を楽しんでいる人たち”(ライフスタイリスト)の大切にしている価値観(my Value)と人生をより輝かせる方法(my Way)を紹介しています。日々の生活向上、活性化に繋がる一意見として参考となる番組です。

[毎週木曜日 22:54～23:00 フジテレビにて放送・BSフジでも放送]

番組・イベントを通じた社会貢献

日本を代表する若手トップアスリートを応援

『Vメシ! JAPAN』

フジテレビ・NEXT EP



毎週ひとりの日本を代表するジュニアやトップアスリート取材し、世界で戦うために努力する彼らのひたむきな姿を紹介。それとともに日本を背負っていくアスリートたちが、ここぞという時に食べる“勝利の食事”にスポットをあてた番組です。食の力を通じてニッポンのスポーツのブームアップに貢献しています。

[毎週日曜日 11:45~11:50 フジテレビ系列にて放送・BSフジでも放送]

アートと食の融合

食べるアート展 L'art de Rosanjin —魯山人と新・美食倶楽部—

BSフジ

2013年7月~9月パリ・ギメ東洋美術館で開催された「魯山人の美—日本料理の天才」のエスプリを受け継ぎ、新たにコンテンツを加えて開催したアート展。パリ開催時に話題を呼んだ魯山人の数々の名品展示、「銀座 久兵衛」のカウンターを舞台に魯山人の器を使った食事を疑似体験できる映像インスタレーションに加え、外国人最年少でミシュラン一つ星を獲得した松嶋啓介が開いた「KEISUKE MATSUSHIMA」などの協力を得て、「美食の一品」や「食のLABORATORY」が楽しめるコンテンツやデジタル技術によって美を体験できるコンテンツを企画しました。



[2015年3月6日~24日]
日本橋三井ホール COREDO室町

イベントなどによる地域活性化

つるの剛士、地元藤沢「市民とつるの集い」で地域貢献

ポニーキャニオン

芸能生活20周年を迎えたつるの剛士が「つるのルーツツアー」ファイナル公演翌日に藤沢市民会館にて開催したイベントを制作・運営しました。芸能生活20周年を迎えた感謝の気持ちをファンに届けたいという趣旨のもとトークとミニライブが開催されました。2012年4月から第三代ふじさわ観光大使に就任したつるのさん。つるのさんの「市民とつるの集い」イベントを通じて湘南ふじさわの情報を積極的に発信し、地域の活性化に貢献しました。藤沢市は子育て支援についてもつるのさんに協力を仰ぐ予定とのことです。

[2014年9月28日]

富山県高岡市観光プロモーション

共同テレビ

富山県高岡市の観光活性化や文化を紹介するため、オリジナルキャラクター「あみたん娘」というCGモデルを企画制作。高岡市で開催されたお祭りや催事でキャラクターを使用したイベントを展開し高岡市のプロモーション活動を支えています。キャラクターのCDも製作しました。

[2014年4月~]

地域社会への貢献

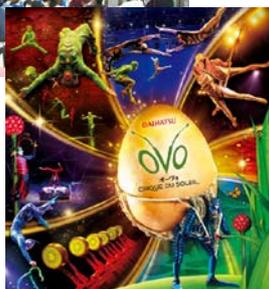
地域の魅力向上と活性化をめざして

フジテレビ他

■ 夏の大型イベントなどでお台場エリアの魅力を向上



毎年夏に皆さんに楽しんでいただける大規模なイベントをフジテレビ本社屋周辺で開催しています。2014年は「お台場新大陸」として7月19日～8月31日までの44日間実施。エリアも大幅に拡大し、番組と連動した参加型・体感型のアトラクションなどが人気を集めました。(総エリア来場者数は455万人)



Photos : OSA Images Costumes : Liz Vandal
© 2009 Cirque du Soleil © 2013 Fuji Television

またカナダに本社を置くシルク・ドゥ・ソレイユによるサーカス公演を初めてお台場で開催し、東京公演は48万人が来場しました。さらに世界最大級のEDMフェス「ULTRA」の日本公演を9月にお台場エリアで初開催。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に国際都市「ODAIBA」をアピールするため、臨海副都心エリアの活性化につなげていければと考えています。

※EDM=Electronic Dance Music

MICE・国際観光

臨海副都心エリアは、「国際ビジネス、イノベーションの拠点」と位置付けられた「国家戦略特区」の一つです。また、東京都も同エリアを「MICE・国際観光」における重点地域として位置づけています。フジテレビ特区事業室は、パートナー企業と共に美しい日本の自然、水と緑をテーマに環境とエンターテインメントが調和したリゾート都市環境を計画しています。プロジェクトでは「特区制度」による規制・制度改革を活用し最新のICTによるスマートコミュニティ化に加えエネルギーマネジメント、区域内気候の改善、省資源・廃棄物削減、環境リスク対策などを講じていく予定です。

■ 街の活性化とくらしの向上をめざした取り組みで地域貢献

サンケイビル

マンションが建つことは、街に新しい風を吹き込み、街の活性化にもつながるという考えのもと、街との共生をめざした取り組みを行っています。地元行政の指導のもと、地域防災にも配慮した安心安全な住まいを提供することは勿論、地元商店街や近隣の方々とのコミュニケーションを通じて、周辺住民も利用できる歩道状空地やポケットパークを整備（ルフォン板橋区役所前の例）するなど地域と人にやさしい住まいづくりを行っています。

『ロマン建築の旅』

フジテレビ・NEXTEP

名建築家たちが建てた家を紹介する番組。100年後の未来を切り拓こうとする建築家の思い、またそれを引き継ぐ弟子・家族の証言を通して建築物が現代に与えた影響などを読み解いていきます。世界的な遺産ともなる建築物を紹介しています。

[2014年4月～9月 毎週日曜17:25～17:30 フジテレビにて放送・BSフジでも放送]

■ 世界遺産招致プロモーション用 ビデオ制作

共同テレビ

世界遺産招致に向けた日本の候補地域の取り組みを紹介したビデオを制作。外国の方に対する周知を目的とした英語版ほか各国語版も作成しました。

[2014年6月～]

障がい者支援

あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらうために

放送における障がい者支援

フジテレビ・共同テレビ

● 字幕放送

7時～24時のほぼすべての収録（生放送以外）番組に字幕を付与しています。

● 解説放送

「解説放送」は主に目の不自由な方々にテレビを楽しんでいただくために副音声を使って画面の解説を行うもので、セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。現在、金曜や土曜の単発ドラマや『ごきげんよう』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』などの番組に解説放送を継続的に付与しており、今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう努めていきます。

字幕制作番組

『くいしん坊!万才』『皇室ご一家』『火曜21・22時ドラマ枠』
『日本映画衛星放送』『時代劇チャンネル』ほか多数

解説放送番組

『ごきげんよう』『金曜プレステージ』枠ほか多数



映画における障がい者支援

フジテレビ

フジテレビが製作している映画には、聴覚障がい者のお客様にもご鑑賞いただけるよう、日本語字幕を付けて上映し、後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕をつけています。

また、視覚障がい者のお客様にも映画をお楽しみいただけるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増えてきています。

音声ガイドとは？ 映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障がい者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、「音声ガイド」の役割です。

● 2014年度に行った音声ガイド付き上映



(C) 2014 「バンクーバーの朝日」製作委員会

「バンクーバーの朝日」

(2014年12月20日公開)

監督：石井裕也
脚本：奥寺佐渡子
全国7劇場にて実施。
総入場者数 448人
うち障がい者（同伴者を含む）221人



「バンクーバーの朝日」の
音声ガイドを担当した
斎藤舞子アナ



(C) 2014 「春を背負って」製作委員会

「春を背負って」(2014年6月14日公開)

監督：木村大作
脚本：木村大作／瀧本智行／宮村敏正
原作：笹本稜平「春を背負って」(文藝春秋刊)
全国9劇場にて実施。
総入場者数 338人
うち障がい者（同伴者を含む）263人



(C) 2014 F/T/K/D/K/K/A

「舞妓はレディ」(2014年9月13日公開)

監督・脚本：周防正行
全国7劇場にて実施。
総入場者数 426人
うち障がい者（同伴者を含む）153人

障がい者支援

障がいを持つ方々が生き生きと働ける社会のために

障がい者雇用の取り組み



フジアール

公益財団法人 東京しごと財団の主催する障がい者との面談会に参加しました。(1月26日) 面談の結果、4人の障がい者の3日間の職業体験訓練を、2014年2月にフジアールの製作工場ですべて受け入れました。

訓練は当社の担当者が事故の無いようにマンツーマンで指導しました。現在この試みを今後のさらなる当社の障がい者雇用につなげられるよう、積極的に取り組んでいます。

フジキャリアデザイン

障がい者雇用で6名(内女性3名)を採用し、派遣社員の給与計算、社会保険手続き、データ入力業務、マッサージ、新聞記事のスクラップ等の業務に従事しています。フジテレビの番組モニターとして障がい者の紹介を行っています。

その他各社の強みを活かした取り組み

「国営沖縄記念公園」触地図つき点字ガイドブック制作

FCG総研

視覚障がい者の方に施設を楽しんでいただくために、日本点字図書館のご協力を得ながら、沖縄の「海洋博公園」「首里城公園」の点字ガイドブックを制作しました。一般用のパンフレットを点字に置き換えるだけではなく、視覚障がい者が楽しみ、心配ごとをなくすように配慮した使い勝手の良いガイドブックになっています。



本を音声化する活動も続けています！

フジテレビアナウンサーによる蔵書朗読録音ボランティア活動

フジテレビ



録音中の堺 正幸アナウンサー

2009年より「日本点字図書館」にて、アナウンサーが蔵書朗読録音ボランティア活動を続けています。点字図書館では、視覚障がい者にも読書に親しんでもらうため書籍を音声化し録音、インターネットで配信しています。これまでに録音を完了した蔵書は27冊。

【2014年度音訳が完了した作品】

「勝負心」「武人の本懐」「心に火をつける言葉」

各社の強みを活かした社会貢献

“主婦（夫）の元氣はニッポンの元氣”

「主婦休みの日」をPR

サンケイリビング新聞



リビング新聞では、1月25日・5月25日・9月25日を「主婦休みの日」として日本記念日協会へ登録。この記念日が家族のために、明るく健全な家庭を運営するためのエネルギーを得られる日になるように、紙面を中心としたキャンペーンを実施。

2014年度には新しいイメージキャラクターのイクコ（1・9・5の月）とニコ（25日）が誕生。

紙面やイベントで主婦休みをPRしています。

※「主婦休みの日」とは、日ごろ、家族のために家事をがんばる「主婦(夫)」がリフレッシュする日、家事の大切さを家族で分かち合う日。“主婦の元氣はニッポンの元氣”をキャッチフレーズにミセスのためのメディアとして、「主婦休みの日」を広く社会に浸透させ、企業や社会全体で主婦の元氣を支えています。

“居眠り運転”撲滅をめざして

ストップ！居眠り ストップ！飲酒運転キャンペーン

ニッポン放送

文化放送とニッポン放送では、2007年度以降、飲酒運転撲滅をめざして共同ラジオキャンペーンを実施してきました。2014年度も、飲酒の機会が増える年末年始の2014年11月24日～2015年1月15日の期間で実施。

“飲酒運転撲滅”に加えて、交通事故要因の一つでもある“居眠り運転”についても合わせて撲滅をめざします。キャンペーンをリードするのは、両局の人気ワイド番組パーソナリティである、福井謙二・水谷加奈（文化放送『福井謙二 グッモ二』）と上柳昌彦・松本秀夫（ニッポン放送『上柳昌彦 松本秀夫 今夜もオトパラ！』）がタッグを組んで、AMラジオのリスナーに向け、飲酒運転および居眠り運転の撲滅をアピールしました。



AAA(Act Against AIDS)運営事務局運営協力

フジバシフィックミュージック

エイズ啓発運動、エイズ問題の提起等、エイズをともに考える同事務局運営に協力し、エイズに対する意識啓蒙に貢献しています。

LIVE FOR LIFE美奈子基金 運営協力

白血病をはじめとする難病患者及びその家族支援を目的に設立された同基金の運営に協力しています。

各社の強みを活かした社会貢献

共同研究

FCG総研

帝京大学医学部との「医真菌の感染経路に関する共同研究」や国立がん研究センター中央病院アピランス支援センターを中心に、多くの大学と共同で厚労省科研費研究「革新的がん医療実用化研究事業」の「がん治療に伴う皮膚変化の評価方法と標準的ケアの確立に関する研究」および「がん患者の外見支援に関するガイドラインの構築に向けた研究」を行いました。

学術団体を支援

代表として都市有害生物管理学会会長、室内環境学会役員、日本顔学会理事副会長、日本化粧品技術者会役員、日本化粧品学会評議員、繊維学会理事、日本家政学会評議員など運営役員などを務めました。

地域中小企業支援

品川区新製品・新技術開発促進事業の補助金審査委員や青ヶ島青耐製造所調査、長野県ワイナリーの調査を行いました。

暮らし向上につながる取り組み

国立相模原病院と「アレルギー生物の遺伝子解析」や「耐乾性カビのアレルゲン性に関する研究」「小麦粉製品のダニ繁殖調査」の共同研究を行いました。

以下のサイトで生活に関する有益な情報を一般の方にわかりやすく提供しています。

- Webサイト 食の安全 I 「食品添加物を調べてみよう」
<http://www.fcg-r.co.jp/additive/customer.html>
1998～現在 食品添加物約1600種類の情報を無料公開しています。
- Webサイト 食の安全 II 「ポジティブリストで残留農薬を調べてみよう」
<http://www.fcg-r.co.jp/pesticide/index.htm>
2005～現在 残留農薬の情報を無料公開しています。
- Webサイト 「比べる×調べる」<http://www.fcg-r.co.jp/compare/>
商品テストや実験、研究を通じて分かった知見を、一般の方々に分かりやすくレポート風にご紹介しています。生活用品や美容、食品・料理に関する情報から、屋内環境生物に関する情報などをご紹介します。産経新聞にて記事を掲載。2013.5～現在（90記事）
- Webサイト 「暮らしのLABO博士」<http://www.fcg-r.co.jp/hakase/>
日頃の生活に役立つ情報を、研究員の目線から分かりやすく解説。食材・お料理、衣類・家庭用品に関する情報、美容・ヘアケアから、ダニ・カビ・虫に関する情報まで幅広く扱っています。2012.8～現在（58記事）

『東京都 人権週間キャンペーン TV-CM制作』

共同テレビ

国連が定めた世界人権Day12月10日に向けた人権週間に流れる「外国人の人権」についての啓蒙告知CMを制作。

『警視庁 暴力団追放キャンペーン TV-CM制作』

東京都の暴力団追放Day、10月1日スタートのキャンペーンCMを制作。

『警視庁 暴力団追放キャンペーン ポスター制作』

中・高生を中心に危険ドラッグ追放を啓蒙するポスターのデザインを企画、制作。

『警視庁 非行防止キャンペーン ポスター制作』

小・中学生を対象にした青少年非行防止目的のポスターのデザインを企画、制作。

[環境のために]

For Environment

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するのはもちろん、企業としても環境に配慮した活動を行ってまいります。
全社での合同清掃活動や各社共通ポスターによるクールビズ・ウォームビズの実施の他、社内の照明・パソコン等の省エネ促進、ゴミの分別、封筒の再利用、紙の裏面利用などオフィスでできる一般的な環境への取り組みを行っています。全力を挙げて環境対策に取り組んでいきます。



[2014年10月10日の清掃活動には19社から97人が参加！] 70リットルのゴミ袋26個分のゴミを回収！

フジ・メディア・ホールディングス各社

■ フジ・メディア・ホールディングス合同清掃活動〔年3回〕

2012年10月より毎年3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動を行っています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに7回実施。今ではすっかり定着し、参加者は毎回70人を超えています。ホールディングスの“結束力”を感じるとともに、日ごろあまり顔を合わせない人との良いコミュニケーションの場にもなっています。

全社一丸となって地域の美化に貢献

[2014年7月15日] 17社から78人が参加



70リットルのゴミ袋21個分のゴミを回収



青空のもと、楽しく清掃♪



[2015年3月10日] 18社から83人が参加 70リットルのゴミ袋21個分のゴミを回収

番組を通じた環境への取り組み 他

『地球環境大賞～迫る危機から未来を救う』を放送

フジテレビ・BSフジ

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、1992年に創設した顕彰制度です。（※42ページ参照）フジテレビとBSフジでは受賞企業の取り組みなどを紹介する特別番組を毎年制作・放送しています。限りある資源を有効活用し、環境を守りながらより豊かな人間の暮らしを実現していくにはどうすればいいのか。23回目となる2014年度の実業・団体をフジテレビアナウンサーが取材・レポートし放送しました。



[2014年6月22日 13:00～14:00 フジテレビにて放送 / 6月28日 15:00～16:00 BSフジにて放送]

『滝川クリステルのEarth Worker』



地球と人間が共存するための知恵を求めて、滝川クリステルが旅に出るドキュメンタリー番組。私たちがこの地球で暮らしていくための、あるべき姿を追いかけます。

命を育むはずの地球は、どこでバランスを崩してしまったのか？そして、本来の地球の姿とはどのようなものだったのか。テレビを見る人に何か新しい発見をもたらすことができるような環境ドキュメンタリー番組をめざしています。

2012年にスタートし、今回でシリーズ第5弾。

[2015年1月1日 19:00～20:55 BSフジにて放送]

『ちいさな大自然スペシャル』

BSフジ

日本人は昔から日々の暮らしの中で季節を感じながら生きてきました。めぐる季節にわが身を晒し、森羅万象に目を凝らしてみよう…益田由美アナウンサーが日本列島の片隅で自然に寄り添って生きる達人を訪問。五感を研ぎ澄まし、季節を身体中で受け止め、自然とともに在る喜びを体感する旅番組をお届けしました。

[2015年1月25日 19:00～20:55 BSフジにて放送]



『絶景百名山』

BSフジ・共同テレビ

四季折々、24時間、様々な表情を見せる日本百名山。未だ目にしたことのないその映像を撮影、名峰の知られざる姿を伝える番組です。名峰の雄姿を紹介するとともに、素晴らしい風景を生み出す環境の大切さを訴えています。

[毎週土曜日 17:00～17:54 BSフジにて放送]

資源エネルギー庁HP「なっとく！再生可能エネルギー」運営

共同テレビ

再生可能エネルギーの情報を広く一般に広報するためのワンストップポータルサイトの運営を通年に行っています。

「農薬ゼミ」セミナー

お母さんたちに知ってほしい・知っているようで知らない農薬と野菜に関する情報を提供するセミナーを企画、運営しています。

[2014年10月 2015年2月]

その他：環境に配慮した取り組み

■ 大手町・丸の内・有楽町打ち水プロジェクト2014

ニッポン放送・サンケイビル



「大手町・丸の内・有楽町打ち水プロジェクト2014」の趣旨に賛同し、有楽町駅前広場、丸ビル周辺、行幸通りで実施された「打ち水イベント」に参加し、省エネ・環境問題の周知に貢献しました。

- サンケイビル：協賛・会場提供・参加
- ニッポン放送：後援・参加

[2014年7月25日～8月14日]

■ 「第5回ロハスフェスタin東京・光が丘公園」の企画・運営

クオラス

「みんなが身近なことから楽しんで実践できるロハス・エコ」を提案する同環境保護啓発イベントを2014年も東京・光が丘公園で開催、2日間で62,100名の来場者がありました。このイベントは、「環境にやさしいライフスタイルは日々の暮らしの中で楽しみながら実践できる」と感じてもらうことが目的です。後援団体の環境省、東京都、練馬区などもブースを展開して、来場者に環境に対する意識向上を図りました。

[2014年9月27日～2014年9月28日]



■ 太陽光発電システムによるCO2削減

ニッポン放送

木更津送信所に設置した太陽光発電システムにより、年間発電量はおよそ2,480MHとなり、2014年度は推定で1,388tのCO2を削減しました。

PICK UP

フジ・メディア・ホールディングス各社

省エネルギーの取り組み

フジ・メディア・ホールディングス
全社共通ポスターによる
クールビズ・ウォームビズの実施

毎年夏のクールビズと、冬のウォームビズの共通ポスターを作成し、各社に掲示しています。



みんなの工夫で、涼しく節電
今年もクールビズ始めました。

フジ・メディア・ホールディングス CSR環境キャンペーン



フジ・メディア・ホールディングス CSR環境キャンペーン

その他：環境に配慮した取り組み

取材や放送に使用するテープの削減とリサイクル

フジテレビ

指定回数使用したテープを破棄する際には、データをすべて消磁し、手作業で分解、部品ごとに仕分けしてリサイクルしています。この作業は、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながら行っており、磁気テープは「畳の芯」などになり、プラスチック樹脂は「自販機の取り出しカバー」などになって、再び私たちの生活に役立っています。



30以上のパーツにわけリサイクル

また、『めざましテレビ』『とくダネ!』などの情報番組では、資源の有効活用とコスト削減のため、2010年からVTR・HDVを再利用するプロジェクトを実施。再利用テープを使用することで、2014年度は金額にして約3,380万円のコスト削減となりました。さらに報道局では「ファイル化ノンリニア編集システム」で、取材、収録、編集、送出、アーカイブをファイルベース化することでテープレス化、メディアのリサイクルを促進しています。

圧縮減容梱包器の活用

フジテレビ・フジアール

使用済みの経師紙等を圧縮減容梱包器に入れて圧縮し、容積を1/3に縮小しています。これにより、運搬車両数を1/3に削減し、排出ガスの削減に成功しました。

大道具廃材一括処理の実施

大道具廃材の一括処理を実施しています。自ら廃材排出事業者としての責任を全うし、産廃業者を通してリサイクル率90%超を実現しています。

撮影現場での環境への配慮

共同テレビ

日本初のポスト新長期排ガス規制対応大型中継車の運用において、LEDライトの多用で消耗品をなくし、消費電力も削減しています。また、取材用バッテリー照明でもLEDライトを使用。放送用機材のバッテリーは環境に配慮したリチウムイオン、ニッケル水素等の大容量電池を使用しています。ロケ収録および編集の際のノンリニア媒体で使用可能なメモリーの使用への変更を実施中。ワイアレスマイク等の機材は完全に消費したのち、電池等危険廃棄業者を通じて処理を行い、放送機器はメーカーを経由して基盤等からレアメタルに還元・高リサイクルを徹底しています。

リサイクルの取り組み

共同テレビ

ドラマ制作部門において作品で使用した衣装（買い取りになったもの）を従業員に安値で提供するバザーを定期的を実施しています。

ニッポン放送

宅配買い取りサービス「ブランディア」と提携し、ラジオのリスナーを対象とする中古ブランド品買取りによるエコリサイクル事業を展開しています。

国産材利用による森林の循環を促進

～家具販売を通して、国産材の良さや意義を広くPR～

■ 平成26年度木づかい運動 国産材利用推進部門において 農林水産大臣感謝状を受章

ディノス・セシール

ディノス事業では通販事業において、2011年から国産材家具の販売を本格的に開始。カタログで国産材利用を広くPRするとともに、その取扱い数を年々拡大。多くのお客様にお買い求めいただくことで国産材家具の普及に寄与してきました。

さらに2013年には、政府の木材利用ポイントの交換商品として、「ディノス」の国産材家具の提供を開始し、今年2014年には、同じくディノスオンラインショップ内に国産材製品を広く扱うコーナー「木のある暮らし」をオープンするなど、積極的な取り組みを進めています。こうした点が評価され、平成26年度「木づかい運動（※）」顕彰国産材利用推進部門農林水産大臣感謝状を受章しました。

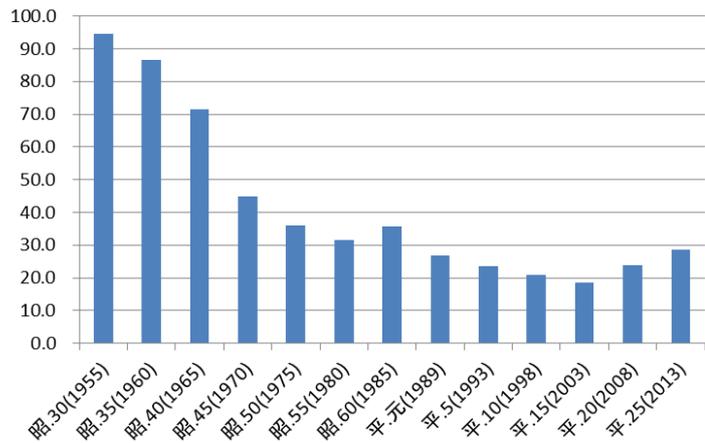
※…木づかい運動とは

2005年に林野庁によって開始。国産材の積極的な利用による山村の活性化及び森林の循環を促すことでCO₂の吸収量を増加させる各種取り組み。



「木のある暮らし」サイト

木材自給率(%) 林野庁統計資料より



■ 昭和30年代には90%を超えていた木材自給率は、価格の安い輸入材に押され平成20年には20%を切りました。その結果、海外の原生林の違法伐採、日本の森林の荒廃、林業の衰退等が社会問題化。国産材の利用を推進することは、これらの問題の解決につながります。

コーポレート・ガバナンス

I.コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

(1) 認定放送持株会社と公益性

当社は、放送法に基づく認定放送持株会社です。

メディア産業を取り巻く環境変化にいち早く対応し当社及び当社の子会社(以下、当社グループ)の企業価値を向上させるには、子会社である株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)を核としつつ放送以外の周辺事業領域に対しても経営資源の最適な配分を行う必要があります。認定放送持株会社は、こうした対応に最も適した組織形態であると考えております。

当社グループは、我が国を代表するメディア・コングロマリットを目指しており、その実現のためには適切なグループガバナンスが不可欠であると認識しております。

一方、現在、放送事業、特にフジテレビが当社グループにおける核であることは論を俟ちません。したがって、その親会社として当社は、フジテレビが国民共有の財産である電波を預かり放送事業を営んでいること、その社会的インフラとしての役割、すなわち、基幹メディアとして緊急災害放送などライフラインの機能を維持し責任あるコンテンツを送り届ける使命について最大限の理解が必要であると考えております。このことは、結果としてグループ全体の企業価値の向上にも寄与するものと考えられます。

したがって、当社は、認定放送持株会社として放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を全うする基本理念をいささかも揺るがすことはなく、そのうえで上場企業として求められる良質な経営を追求すべくグループ全体のコーポレート・ガバナンスの在り方について不断の検討を続けてまいります。

(2) コーポレート・ガバナンス充実に向けての取組状況

当社は、取締役の定員を20名以内、取締役の任期を1年としております。また、16名中13名の取締役が、フジテレビの取締役を兼ねております。これは、当社グループ全体においてフジテレビの影響が相当であることなどを総合的に勘案した体制であります。今後の体制につきましては、当社グループ全体の企業価値を最も高められる体制を柔軟に検討してまいります。

当社では、内部統制機能を高める狙いのひとつとして「適正業務推進室」を設け、同室内に内部監査を担当する適正業務アドバイザー、コンプライアンス整備及び財務報告に関する適正確保を目的とするグループコンプライアンス担当を配置し、業務の適正化とともに各部門の課題等の迅速かつ社内横断的な解決に努めております。また、フジテレビも同様の体制を整えております。これにより、当社では主にグループ全体の内部統制機能を統括し、フジテレビでは同社内の同機能を適切に執行する体制を確保しております。

(3) 会社の機関の内容

当社の主な機関としましては、会社法に規定する株主総会及び取締役のほか、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人に加え、業務執行の機関として経営会議が設置されております。経営会議は、主に常勤の取締役によって構成され、経営の重要課題に関する協議や取締役会に付議される重要事項等について事前審議を行うとともに、各部門の業務執行の状況に関し情報の共有化を図っております。なお、経営会議には常勤監査役も出席しております。

また、持株会社として、グループ全体の状況把握及び十分な意思疎通を図るため、定期的に「グループ社長会」を実施し、グループ各社の状況について活発に意見交換を行っております。

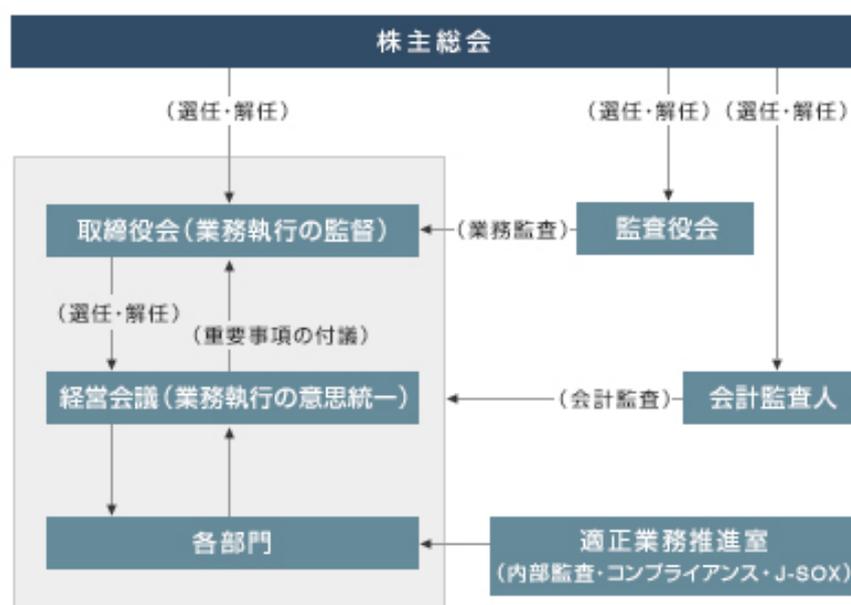
(4) 会社形態及び社外役員に対する考え方

当社は監査役制度を採用しております。監査役形態は、グループ全体における核であって放送事業を営むフジテレビを完全子会社とする当社にとって、その基盤である公共性・公益性の要請と企業価値の確保・向上の要請とを調和させる企業統治形態として、適正に機能しているものと考えております。

また、当社では、監査役5名のうち3名が社外監査役であります。社外監査役には、一般事業会社及び学校法人における豊かな経験に裏付けられた高い見識と知見を有する人材を選任し、当社に最適な監査を確保しております。

また、当社は取締役16名のうち6名が社外取締役であります。社外取締役には、メディア事業に関する高い専門性に裏付けされた適切な執行及び監督機能を期待し、その期待に応え得る人材を選任しております。社内取締役については、当社の企業文化等に精通した人材の中から経験豊富で実行力のある人材を登用しております。

当社の業務執行・監視の仕組みは以下のとおりです。



(5) IR

当社は積極的なIR活動を通じ株主からの要望等を経営陣が共有することにより、株主の視点を経営に反映させるよう心がけております。具体的な取組みとしては、国内において年2回の機関投資家・アナリスト向け説明会の実施、海外においても年間1回程度機関投資家向けIR訪問等を行っております。また、国内における説明会については、投資家への情報提供の均等化のため、配布資料及び当日の映像を速やかに自社ホームページ上で配信しております。

(6) ステークホルダーについて

当社グループの核となるフジテレビは、国民共有の財産である電波を預かる者として社会的責任を認識し、放送法、電波法、社団法人日本民間放送連盟の放送基準をはじめとする法令等の遵守に加え、フジテレビ行動指針やフジテレビジョン番組審議会規定に基づく番組審議会によって、放送番組の適正化を図っております。

これらは、認定放送持株会社である当社が、株主の視点に立ち、企業価値の維持・向上を目指すうえで重要なステークホルダーのひとりである視聴者の立場を尊重することにつながるものと考えております。

II.内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

1. 基本的な考え方

- (1) 当社グループが、わが国を代表するメディア・コングロマリットとなることを目指し、認定放送持株会社として中核となるメディア事業の公共的使命を果たすべく、適正なグループガバナンスを維持し、経営の意思決定の迅速性と事業執行の機動性を高め、あわせて法令・定款遵守の実効性を確保するために、適切なコンプライアンス及びリスクの管理に関する体制を構築します。
- (2) 「グループのコンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」(以下、グループコンプライアンス規程)を策定し、これに基づいて、コンプライアンス及びリスクの管理に関する体制を構築します。
- (3) 当社グループは様々な業態の会社により構成されており、各社はその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制を構築します。また、グループ各社の横断的なコンプライアンス及びリスクの管理に関しては、グループのコンプライアンス及びリスクの管理に関する委員会(以下、グループコンプライアンス等委員会)を設置します。

2. 内部統制システムの整備状況

- (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制及び損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - a. 組織及び対応策の構築
当社の代表取締役社長は、グループコンプライアンス規程に基づき、コンプライアンス及びリスクの管理に係る当社グループ全体の責任者(以下、コンプライアンス等責任者)となり、当社グループ全体の関連業務を統括します。当社の代表取締役社長は、その補佐役としてコンプライアンス及びリスクの管理に係る担当役員を任命するとともに、当社グループ各社におけるグループのコンプライアンス及びリスクの管理に係る委員(以下、グループコンプライアンス等委員)を指名し、グループコンプライアンス等委員会を設置して、当社グループ全体のコンプライアンス及びリスクの管理に関する対応策の検討並びに整備等を行います。なお、グループコンプライアンス等委員会の事務局を当社の適正業務推進室に設置します。コンプライアンス等責任者は、コンプライアンス及びリスクの発生に関して、経営に重大な影響を与える可能性のある事案が確認された場合には対策チームを設置し、情報の収集、対応策の検討等を行います。
 - b. 財務報告の信頼性
当社の代表取締役社長はコンプライアンス等責任者として、健全に行われている業務に十分配慮しつつ、コンプライアンス及びリスクの管理の強化を図るための体制の整備に加えて、金融商品取引法に基づき、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。
 - c. 教育・研修
当社の適正業務推進室は、コンプライアンスプログラムの実施に当たり、適宜、社内及びグループ内説明会の開催や関連事項の伝達などにより、当社グループ各社の取締役及び使用人への当該プログラムの周知とその理解を促進する活動を行います。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。
- (3) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
当社の取締役は、当社グループの効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。当社は、当社グループ全体の経営計画を策定し、当社グループ各社から業績の報告を受ける等の方法により、経営計画の実施状況をモニタリングします。

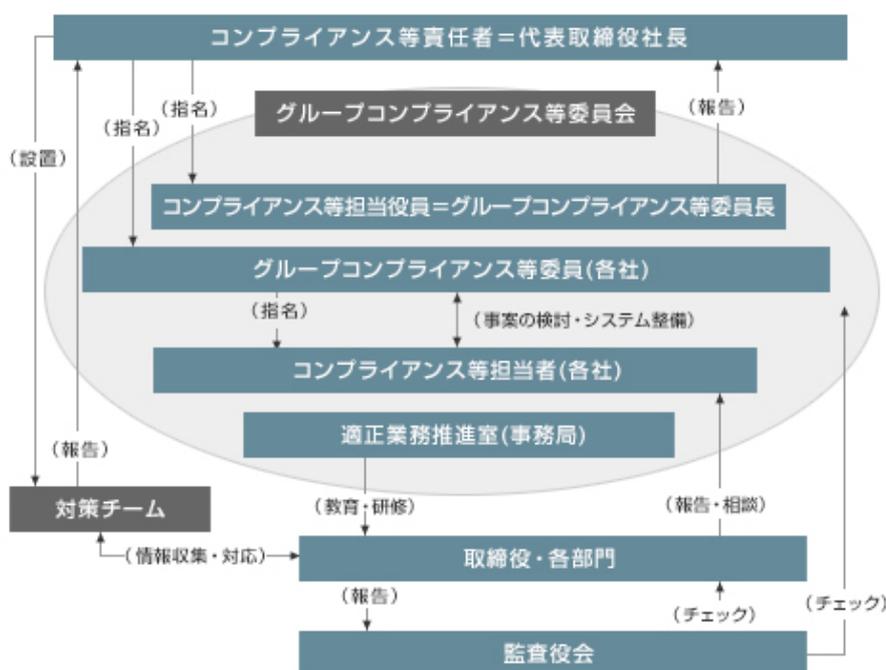
(4) 株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- a. 当社の取締役は、当社グループ各社の取締役及び使用人が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守した行動をとり、かつ、効率的な業務執行が行われるよう関係会社管理規程に基づく横断的な管理を推進します。関係会社の管理に関する業務は当社の経営企画局で行います。
- b. グループコンプライアンス規程に基づき、コンプライアンス等責任者に指名された当社グループ各社のグループコンプライアンス等委員は各社のコンプライアンス等担当者を指名し、コンプライアンス等担当者は各社内におけるコンプライアンス及びリスクの管理に関する業務を行い、各社が自律的にコンプライアンス及びリスクの管理に関する体制を構築します。また、コンプライアンス等担当者は当社グループ各社において、コンプライアンス及びリスク管理に関する意識を高める活動を展開します。なお、当社グループ各社の横断的なコンプライアンス及びリスクの管理に関する業務は、グループコンプライアンス等委員会及びその事務局である当社の適正業務推進室で行います。

(5) 取締役及び使用人が監査役又は監査役会に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- a. 当社の取締役及び使用人は、当社の監査役又は監査役会に対し、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 - 1. 業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実(当社グループ各社に関するものを含む。)を知った場合。
 - 2. 取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規程に違反する事実(当社グループ各社に関するものを含む。)を知った場合又は社会通念に反する行為が発生する可能性がある場合若しくは発生した場合で、当該事実又は行為が重大である場合。
 - 3. その他緊急・非常事態を知った場合。
- b. 当社の取締役及び使用人は、当社の監査役又は監査役会に対し、各部門における主要な事項及び内部統制に関する部門の活動概要等について定期的又は必要に応じて報告を行います。
- c. 当社の取締役及び使用人は、当社の監査役又は監査役会からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。

当社の内部統制の仕組みは以下のとおりです。



フジサンケイグループとしての取り組み

高松宮殿下記念世界文化賞

PRÆMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

● 第26回高松宮殿下記念世界文化賞

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会（総裁 常陸宮殿下）により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。長きにわたり総裁を務められた高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。

文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門、各部門年間1名を原則とし、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また、次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。



2014年10月15日に第26回目の贈賞式が行われ、演劇・映像部門でアフリカ大陸から初めて南アフリカのアソル・フガードさんが選ばれたのを始め、音楽部門ではエストニアから初めてアルヴォ・ペルトさんが選出されました。また若手芸術家奨励制度も、西アフリカのベナン共和国から「ジンスー財団」が選ばれ、アフリカからは初受賞となりました。

これまでの受賞者数は26ヶ国、134名におよび、国境や人種の壁を越えて地球規模になっています。フジ・メディア・ホールディングス各社は同賞の趣旨に賛同し、賞の創設以来サポートをしています。

◆ 「高松宮殿下記念世界文化賞特番」を放送 【制作：フジテレビ／共同テレビ】

フジテレビ 2014年10月22日 24:35～25:10放送

BSフジ 2014年10月25日 18:00～18:30放送

● 美術館支援

フジサンケイグループの公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団が運営する「彫刻の森美術館」「美ヶ原高原美術館」、また公益財団法人 日本美術協会が運営する「上野の森美術館」に対し、グループ各社と連動し、わが国の芸術文化活動の普及に寄与すべく開館時より様々な支援を行っています。彫刻の森芸術文化財団は美術館運営のほか、文化面での国際支援として、若手音楽家の登龍門ともいえるロン・ティボー国際コンクールを主催している「ジャック・ティボー財団」の支援等も実施しています。

フジサンケイグループとしての取り組み

● 地球環境大賞

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金（WWF）ジャパン（名誉総裁・秋篠宮殿下）の特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。

第23回
地球環境大賞
Since 1992



2014年4月に第23回目の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジ・メディア・ホールディングス各社は「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に少しでも役立ちたいと考えています。

◆地球環境大賞2014・特別番組

「迫る危機から未来を救う」を放送

フジテレビ 2014年6月22日 13:00～14:00放送

BSフジ 2014年6月28日 15:00～16:00放送

● フジサンケイグループ広告大賞

「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与すべく、1971年にフジテレビを中心として創設されました。賞の運営は、グループの媒体各社が中心となり、2014年4月8日に第43回贈賞式が実施されました。

● 音楽関連支援

フジサンケイグループは音楽を通じて豊かな日本社会の実現に寄与すべく、グループゆかりの「公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団」に対しグループで大口サポーターとして支援を続けています。さらにフジテレビは上記のほか、「公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団」の音楽活動にも支援をしています。また社のトップが財団役員として参加しています。

● 赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社）は2012年に創設され、2014年10月31日に第3回表彰式が行われました。フジテレビ・BSフジでは、この顕彰制度の趣旨に賛同し、後援するとともにニュース等で報道、また特別番組を編成し有意義なこの活動をサポートしています。



『密着！かかりつけ医たちの奮闘 第3回赤ひげ大賞 日本医師会』をBSフジで放送

2014年で3回目を迎えた「赤ひげ大賞」地域に密着して人々の健康を支える医師たちを顕彰する目的で始まったイベントの様態を放送しました。

[2014年11月29日 14:00～14:55 BSフジにて放送]

フジ・メディア・ホールディングス

会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS,INC
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-3570-8000（大代表）
設立	1957（昭和32）年11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、 認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、 「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	6,125名
代表者	代表取締役会長 日枝久 代表取締役社長 太田英昭

(2015年3月31日現在)

2015フジ・メディア・ホールディングスCSRレポート

■対象期間

2014年4月1日—2015年3月31日

■発行時期

2015年6月24日

ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。

<http://www.fujimediahd.co.jp/csr/index.html>

